

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100267		
法人名	カルミア株式会社		
事業所名	グループホーム咲花 唐山		
所在地	愛知県名古屋千種区唐山町一丁目41番地		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和3年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	karumia-fukushi.com
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	愛知県名古屋千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	令和3年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の状況において、少しでも、利用者様が笑って暮らせるように、各フロア担当制で、毎月、季節の行事やイベントを開催しています。その様子をご家族様に見て頂けるように事業所のホームページに掲載しています。その他、日常的には、ADL低下防止に各フロア事に、歌を歌ったり、体操やゲームなどを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は新型コロナの流行により、地域活動の自粛、外出や家族面会の自粛が続いているが、身体機能が低下しないよう毎日体操したり、歌や作品作り等のレクリエーションや月一回の施設全体でのイベントを提供する事で、利用者の心身安定、生活の充足に努めている。こうした毎日楽しく過ごして頂くケアを継続し、「笑って暮らそう仲間だてね」の理念が浸透し、利用者や家族がこの様な世情でも安心して生活できる環境を整備している。家族とは来所時や電話で直接話をする機会を設けたり、お便りやホームページの情報掲載により利用者の暮らしぶりを詳細に伝える事で安心、信頼関係を深めており、アンケートでは「管理責任者の真摯な対応」「いつも親切な対応、スタッフが明るく元気」「家庭的な雰囲気の中で本人ペースで接して頂いている」等、多数の感謝の声が挙がっている。家族との良好な関係を保ち、運営の発展に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑って暮らそう仲間だよね』という理念は、玄関、各フロアに掲げてあり、利用者様、職員が楽しく笑顔で過ごせるように意識して仕事をしています。	理念は職員の目の届く場所に掲示し、時折会議等で話し合い認識を高めている。職員は日頃のケアの中で、利用者が笑顔になれるような関わりに徹し、理念を実現している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	例年は、地域の子ども神輿やハロウインの行事や町内会の大掃除等に参加しているが、今年は、コロナ禍ですべて、中止となり、交流できない状況です。職員が出勤途中で、ご近所の方とすれ違う時に挨拶する程度に留まっています。	今年度は感染症対策で地域行事を自粛している。週1回の施設周辺の公道掃除を行い、地域に貢献している。その際に近隣住民と挨拶を交わし関わりを継続している。住民から食べ物やオムツ、衣類等の差し入れがあり、地域と共存している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な地域への働き方は、できない状況ですが、施設のホームページで、行事やイベントの状況を掲載しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議は、コロナ禍のため、開催はできていないが、FAXや電話等で、状況説明を行っています。	推進会議は社内で行い、推進メンバーにはFAXで報告し運営状況を周知している。推進会議で話し合った事は職員へ周知し、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者への連絡等は、施設長が窓口となって、連携しています。	市窓口担当者は決まっているため、相談事がしやすく連携できており、協働関係築けている。市町村研修の情報はFAXや書類が届き、リモート研修に参加している。管理者は参加できる研修には積極的に参加できるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待については、身体的拘束等適正化委員会を立ち上げ、委員を中心に年2回、研修会を行い、虐待防止に努めている。	年間2回の研修でアンガーマネジメントを取り上げたり、基礎となる認知症ケアに重点を置き、日常の支援で身体拘束をなくす様取り組んでいる。管理者は利用者の観察をしっかり行う事により身体拘束軽減に繋がると指導したり、不適切な言葉掛けに対し即座に注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待を見逃さないよう、各フロア会議や研修会等で、話し合いを行いながら、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護の対象者がいないため、権利擁護について、学ぶ機会は設けていないが、今後は必要になるかもと想定し、皆で学習する機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様、利用者様にきちんと説明し確認しながら、了解して頂いてから、契約して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の意見・要望は常に受け付け、運営に反映しています。	家族からの要望は、面会時や電話で直接話をして引き出している。アンケートでは「施設長は相談しやすくよく理解してもらっている」「本人の状態に応じて素早い対応をして頂いている」等の声があり、家族との信頼関係が築けている。家族からの嗜好品の差し入れ等、個別に対応する事がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各フロア会議で、職員や管理者の意見や提案を出し合い、反映しています。尚、年2回、全職員と社長の個人面談があり、職場環境の改善等のきっかけとなっています。	管理者は職員の様子を観て、時間を作り個別にじっくり話を聴いたり、希望の休み以外にも職員の都合を考慮して勤務調整を行う等、働きやすい環境作りに努めている。職員の提案はまず実践に移し、仕事への意欲やサービス向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の休日の希望や有給休暇も取りやすく、働きやすい環境を心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は、コロナ禍のため、外部研修に参加できない状況ですが、施設内研修は、計画的に行って、職員のスキルアップを心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年ですと、会社の総会等で、他施設との交流会が開催されるのですが、コロナ禍のため、今年は中止となりました。会社外の他のグループホームとの交流は、今後進めていきたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様やご家族の要望に対応できるよう、職員間で、情報を共有し、安心して暮らせるように関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者を中心に、面談や電話等で話を聞き、わからないことに関しては、丁寧に説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望や不安なことについて、傾聴し、必要であれば、他のサービス等も説明させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事後の食器の片付けや、洗濯物を干したり、畳んだり、利用者様の状況に応じて、職員と一緒にいき、暮らしていることを意識してもらえよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に変化があれば、すぐに家族に連絡をとり、情報を共有しながら、本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、本人の馴染みの人や場所との交流ができていないが、今後はできるように取り組んでいきたい。	感染対策で外出全般自粛している。帰省や墓参り等の外出には家族と連携を図り支援する体制を整えている。行けなくなった行きつけの理容店の方に来所してもらおう計らい、関係性が途切れないように支援した。手紙や電話の取次ぎをして、馴染みの人との繋がりが持てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないように、相性などを考慮し、食堂テーブルの席を考えたり、コミュニケーションが上手くできない状況の時は、職員が間を取り持ったりなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡等ある時や、必要なことがあれば、対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月1回行われるフロア会議で、利用者の現状を確認し、より快適な生活が送れるように、支援方法を検討している。	利用者に対し日々日常的に声がけすることで信頼関係や安心してもらえる環境を作り、コミュニケーションの中で希望や意向、思いの把握に努めている。行動の変化から奥に潜む思いに気づけた例もある。口頭や申し送り用紙、ノートを活用しこまめに情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族様の意見・要望は常に受け付け、運営に反映しています。個々人のケースファイルには、ご本人のフェースシートがあり、入居までの状況が記録されているので、全職員が把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化は、記録や申し送り等により、職員が共有できるようにしています。状況変化が著しい場合は、フロア会議で対応を話し合っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の休日の希望や有給休暇も取りやすく、働きやすい環境を心がけています。フロア会議で、各利用者様の状況が話し合われ、それを踏まえて、介護計画が作成されています。	フロア会議で利用者ごとに職員の気づきや様子を話し合い、その内容をもとに管理者がモニタリングを実施し、介護計画に反映している。通常6ヶ月で見直し、変更があれば会議の中で情報交換している。可能であれば本人に計画の署名してもらうこともあり、状況変化に気づききっかけとなる場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、ケース記録に記載し、職員間で情報共有を行うと共に、特に注意すべき点は、日々の申し送りで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外の要望があれば施設長等に報告・相談し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様、個々の地域資源をすべて把握していないが、ご家族や入居前の担当ケアマネより、聞き取りできている場合は、できるだけ活用して支援できていると思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、全員が施設の訪問医師に診て頂いています。他科受診が必要な時は、訪問医師が希望等を確認し、紹介状を書いて下さっています。歯科、皮膚科、眼科も不定期に往診して頂いています。	入居時に内科医は協力医に変更してもらい、往診を受けている。皮膚科や眼科の不定期な往診もあり、コロナ感染症拡大の中適切な医療受診に繋がっている。家族が通院に同行できない場合は施設で対応している。訪問看護師が週1回健康チェック等で来訪しており、日々のケアや薬の調整面で職員との連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携にて、毎週1回、訪問看護師が利用者様の健康チェックや処置に来ています。それ以外は、緊急時対応の電話相談や指示もして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時は、入院先の病院に、情報提供を速やかに行い、連絡が取れる体制を整えています。退院後にスムーズに受け入れができるように、退院前カンファレンスに訪問看護師と施設長が参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、訪問医師、訪問看護師と施設長、現場の職員と情報を共有し、本人様ができるだけ苦痛なく見送れるように、取り組んでいます。	入居時に重度化に向けての方針の基本的な説明をし、状態変化とともに随時医師、訪問看護師、家族、施設関係者が情報を共有し方針を決めている。面会制限をなくしたり、居室での家族宿泊の認可等柔軟な対応に努め、チーム一丸となって支援に取り組んでいる。職員の強い希望もあり、3月には訪問看護師による「看取りケア」研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、定期的に防災訓練のひとつとして、急変時の初期対応や応急処置について、施設内で研修を行っているが、全員の職員が実践できるように、今後も研修や振り返りを行っていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震等の避難誘導訓練は、年2回行っています。今後の課題は、地域との協力体制について取り組んでいきたいと考えています。	9月に昼間、12月には夜間想定訓練を実施し、避難経路を確認し、利用者はフロアの安全な場所への避難に参加している。水や食料、カセットコンロや衛生用品を2か所に分けて備蓄している。食材配達業者と災害時協力の協定を結んでいる。試食で缶詰のパンの食べづらさが判明し、役立つ備蓄品選択にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心がけています。そのための研修や話し合いも行っています。	人生の先輩でもある利用者に対し、人格を損ねず丁寧にさりげない対応や言葉がけをするよう心がけている。呼称に関しては確認を取り、「コミュニケーションについて」の研修ではミーティング形式の実施で一人一人への意識付けに力を入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行で、希望の表出や自己決定が困難な利用者様も見えますが、できる限り、希望や自己決定ができるように支援していければと思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ本人の希望にそって、排泄・ベットで休みたいなど、対応しているが、希望のいえない方の対応については、職員側のペースで進んでいるので、今後の課題です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍のため、毎月来て頂いた理美容の訪問が困難になり、髪が伸びているのが、気になりますが、起床時には洗面所で整容してもらう等は毎日、行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節メニューや好物のメニューを取り入れたり、好きな食べ物を食事作りには、なかなか参加して頂けていませんが、お膳を運んだり、後片付けを一緒に行っています。	食事は配達食材の利用で手作りし、嚥下状態に応じた形態をかえたりとろみを加えている。行事の際には赤飯やちらし寿司といった季節感を味わえるメニューに変更したり、日曜日はフロア持ち回りの手作りおやつ企画でたこ焼きやお好み焼き、ホットケーキ等を楽しんでいる。介助時の現場職員の提案を取り入れて使用する食器や環境整備にも目を向け、訪問歯科の指導のもと口腔内の清潔保持にも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量は、チェック表に記入しています。バランスや体調等を考慮し、楽しく食べて頂けるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きして貰っています。本人の能力に応じて、介助しています。毎週1回訪問歯科に診て頂いて、口腔内のチェックをしてもらい、職員への指導も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で行えない方は、食事の前後やお茶の後に、声掛け誘導を行い、失敗なく排泄できるように支援しています。	自立の方もあるが、見守り支援やチェック表に基づき定期的に誘導する方もあり、日中はトイレでの排泄に向け支援を行っている。夜間は睡眠の程度や尿量を考慮し、個別に対応している。衛生用品の使用に関しては家族に了解をとって進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いおかずは、食べて頂けるよう声かけし、できるだけバランス良く食べて頂けるように対応しています。それでも、便秘の方は、訪問医師や看護師に相談し、服薬してもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週3回決まった日に入ってもらいますが、本人の体調や気分でも変更することがあります。	週3回を基本とし、体調や希望で変更することもある。拒否される場合は声かけの工夫や時間の変更で上手く対応している。しょうぶ湯やゆず湯で季節を感じたり、マンツーマン対応の時間が昔話で盛り上がることもあり、楽しみとなるよう個々に沿った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツやカバー等は、定期的に洗濯し、清潔を保ち、気持ち良く寝て頂けるようにしています。個室にて、自分のペースで、休めるように見守り支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬情報は、個々のケース記録にファイルして、職員全員が共有しています。新しい薬を服用するときや、中止するときは、申し送り等で、情報を共有し、変化に気付けるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の生活の中で、手伝って頂けることは、一緒に行っています。季節ごとに様々なイベントが催され、参加したり、一緒に準備をします。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年なら、散歩や喫茶店に出掛けていたが、今年は、コロナ禍のため、気軽に外出の機会が激減したので、支援できなかったのですが、コロナ禍が去れば、出掛けられるように支援します。	外出の機会が減り、玄関での外気浴やフロアでの窓越しの日光浴で気分転換を計っている。家族との外出や外食も利用者にとっては楽しみであったが、家族も感染拡大防止の観点から訪問や利用者との面会を自粛しており、不穏な気持ちは、写真やお手紙を見せたり、言葉がけで解消している。体力保持に向けフロアで体操を取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持している方は、見えますが、コロナ禍のため、近くのスーパーへの買い物も自粛です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様やご家族の要望があれば、気軽に電話して頂いています。ご家族から、手紙が届いたり、利用者が手紙やはがきを出したいと希望すれば、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに玄関、廊下、フロアを飾りつけて、季節感を感じて頂いたり、話題にして会話を楽しんだりしています。	訪問時、玄関にはひな人形が飾られていた。利用者と季節の作品作りをしており、年1回11月にはフロアの手作り作品鑑賞ツアーが開催される。各フロアで壁などの色調が違っているので職員も含め施設内でありながら新鮮な気分を味わえる行事となっている。テーブルの配置は状態に応じて変更し、1人で過ごせる場所もさりげなく配置し、ストレス解消に役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室空間があり、フロアには、ソファを置いてあり、壁の反対側に椅子を置いて、ひとりでもほっと過ごせる場所を確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた物を持ってきて頂いて、居心地良く過ごして頂けるように配慮しています。	個々に使い慣れた化粧品入れや椅子、仏壇等を持ち込んだり、塗り絵や作品、写真を飾り居心地よく過ごせる空間となっている。電気ケトルや使いこなせない携帯は持ち込み不可とし、カーテンやエアコン、クローゼットがあらかじめ備え付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからなくなっている方がわかるように、居室の表札を大きく書いて貼ったり、トイレの表示をわかりやすく工夫しています。		